

組織の業務推進力は 計画力と指示命令の時間で決まる



奥山 慎次

組織とは、会社目的を達成するに足りるものでなければならないが、そのためには4つのコミュニケーションルールが重要であることは意外に忘れられています。

1. 指示命令を出す者に関する事
2. 指示命令を受ける者に関する事
3. 報告連絡相談を行う者に関する事
4. 報告連絡相談を受ける者に関する事

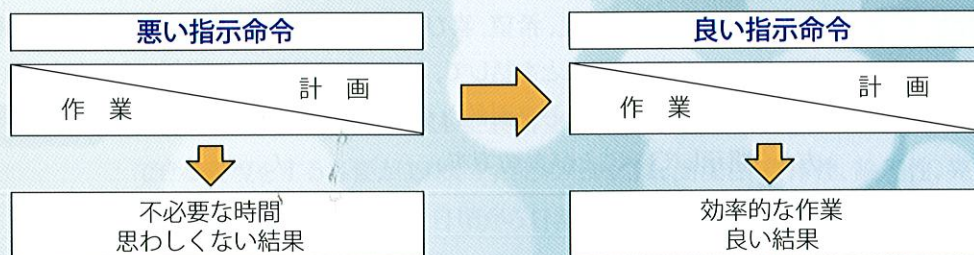
以上4つが組織の中で毎日のように何百何千と行われているわけです。つまりは、この一つ一つの精度の積み重ねが組織の力となることは言うまでもなく明白です。

今回はその中の一つである「指示命令を出す者に関する事」について記述しましょう。

「指示命令を行うものは、すべての結果において責任を持たなければならない」

業務の成否は、初期の段階における念入りな計画と業務に関わるスタッフへの落とし込み度で決まるといっても過言ではありません。しかし、多くの場合、短時間による計画作成と不十分な説明によって業務指示がなされるために、業務が進捗するにつれて、多くの問題点が浮き彫りとなり、「不必要な時間」と「目標とはかなりかけ離れた低い成果」がもたらされるのです。指示命令者は、このようなことが生じないためにも、計画段階ですでにできるだけの時間を費やし、業務プロセスを描くとともに、指示命令受託者が何の躊躇もすることなく即座に業務に取り掛かれるように説明をしなければなりません。更には、業務の進捗状況を常に監視するとともに受託者からの報告を行わせ、命令者と受託者の間で状況把握に対する誤差が生じないように努めなければなりません。そして、至極当然ですが、すべての結果は命令者の責となることを忘れてはなりません。

指示命令者は、作業者ではなく、脚本家・演出家なのですから、主役(受託者)が脚本通りに演じられるように最大の関心と配慮をすべきです。そして、主役が演じている間、主役から目を離してはならないのです。これが「マネジメント」です。



計画性の無い幹部の末路

1. 計画性のない行動は、会議や打ち合わせの回数が増える
2. 計画性のない行動は、作業時間に膨大な時間を費やす
3. 計画性のない行動は、マネジメントができない
4. 計画性のない行動は、社員のやる気を喪失させる
5. 計画性のない行動は、目標と結果に大幅なズレが生じる
6. 計画性のない行動は、責任者と社員の間溝を作ってしまう(信頼関係の崩壊)
7. 計画性のない行動は、責任者が役員から信用を失ってしまう
8. 計画性のない行動は、責任者を一人ぼっちにしてしまう

奥山慎次氏プロフィール 【中小企業診断士 FP技能士 建築施工管理技士 土木施工管理技士】

1984年大学卒業後、会計事務所に勤務し、経営コンサルティングに重点を置いてクライアントの指導を行う。その後、医療法人・アパレル・総合建設業・複合型企業など、多数の企業において取締役並びに統括責任者を歴任する。2000年に独立開業後は、中小企業の経営戦略・財務戦略・事業再生・M & Aを中心に業務を多数手掛ける。現在は企業価値向上をコンセプトとして多くの中小企業の支援を行っている。